

22. 前門の虎、後門の狼？ 一難で終わらないのが自然災害

一つの災害を逃れたかと思うと、すぐまた他の災難にあるというようなことは、大小は別にして日常でも決してまれなことではないと思います。自然災害もその規模が大きかったり、災害によっては限られたところや限られた被害以上に拡大して、想像を超えとか時間において意外のことが起きるのも珍しくありません。先年、宮城県の北部豪雨災害では、河川の決壊や氾濫があつてある程度予想できていましたので、警報や警戒が機能して犠牲者もなく避難することができました。河川の水位も下がり始めた時に、思わぬ内水氾濫に見舞われ、住民にとってはどこから水が来たのか驚くようなことがありました。床下浸水程度ではありましたが、今後はいわゆる都市災害として内水氾濫には注意しなければなりません。また、このときは、後日の調査で明らかになったのは、上流部における山地崩壊、林地災害、ダムの閉塞などが起きていて、次の災害予備軍ができていたことが判明しました。目の前の川が落ちてきてきたからということだけで安心はできません。よく言われるのは、あれだけの地震で崩れなかった、壊れなかったのだからちょっとやそつとでは今後も大丈夫だということがありますが、その時は壊れなくてもボデイブローを受けて脆弱になっている可能性があり、決して軽く見てはいけません。地形や地質から素因的リスクがあるところは、今後も変化や兆候に注意しておく必要があると思います。特にがけ崩れや土石流は偶然に起きるように思われますが、それには確かな理由があるはずです。豪雨や地震といった後には丁寧な観測をしておくことが大事なことですので、できれば専門技術者のアドバイスを受けておくこと今後の備えに有効なことだと思います。

2011年の東日本大震災の余震とか余効地震というのがいまだに起きています。時には大きな被害をもたらすものもあります。10年以上も経過しているのにも思いますが、今後数十年連続したものが起きるとも言われています。21世紀に入って大地震時代に入ったというような表現がなされますが、確かに東日本大震災以降、それ以前の約3倍の内陸地震が起きています。この内陸地震は、地表から20km以浅で起きる直下型地震で、周期性もなく限られた区域での被害が大きい。その原因として二つ考えられています。一つは、ポスト東日本大震災が原因と考えられるものとプレ西日本大震災（南海トラフ巨大地震）として考えられるとするものです。大地震は、東日本大震災でも確認されたように、日本列島は最大で5.3mも引き伸ばされて太平洋側に移動して海岸沿いでも最大1.4mも沈下したわけで、ここで生じたヒズミを解消するために内陸の地盤の脆弱なところで内陸地震が起きはじめたと考えられ、少なくとも数十年は継続するとも言われています。大きな地震は一過性でないわけで、その後に様々な形で関連する現象が続くと考えられます。

地震とは異なりますが、最近台風や豪雨による水害、土砂災害が多くなってきていますが、これも後遺症的な現象が色々起きていますので、目前から過ぎていったと思っても、安心できないということもあります。自然災害は想像を超えるエネルギーを有していることから、様々なものへの影響を無視できないということで、避難は帰宅とペアの行動ですが、いずれも安易な判断は要注意といわれています。